

1. 件名：東海再処理施設の廃止措置計画に係る面談
2. 日時：令和5年5月18日（木）13時30分～14時45分
3. 場所：原子力規制庁10階会議室 ※一部出席者はTV会議にて実施
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部
審査グループ 研究炉等審査部門
菅生主任安全審査官、上野管理官補佐、大島原子力規制専門員
検査グループ 核燃料施設等監視部門
栗崎企画調査官、正路管理官補佐、藤岡係員
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
安全・核セキュリティ統括本部 安全管理部 施設保安管理課 マネージャー 他1名
再処理廃止措置技術開発センター 副センター長 他10名
5. 自動文字起こし結果
別紙のとおり
※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
6. 配付資料
資料1 TVF3号溶融炉のガラスレット試験の結果について
資料2 クリプトン回収技術開発施設 空気圧縮機の制御系の改造について

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	原子力規制庁のオオシマですそれでは、本日の面談を始めさせていただきますと思います。早速ですけれども、後、本日ご提出いただきました資料に基づきまして、経営委員の方からご説明の方をお願いいたします。
0:00:20	はい原子力の森川です。まずガラス固化の進捗状況について口頭ですけど報告の方をさせていただきます。
0:00:30	まずTVFの状況です。こちらは3号炉の大江の更新の準備ということで解体場で固化セル内廃棄物ということで残留から除去装置等の改定作業を今継続しております。
0:00:48	またこの改訂作業と並行して実施しております高経年化対策のうち、医療型マニピュレーターのコードリール交換、こちらにつきましては、先週、5月10日をもって完了しております。
0:01:03	引き続き、本年2月に呈しました固化セル内のインセルクーラーファンですね、こちら電動機の交換作業を今後実施していく予定としております。
0:01:16	のを交換したの利用型盛ペーターの行動理由取り外した高度にですねこちらは高線量であるということが前回面談等でもお伝えしましたが、
0:01:28	この高線量であることから人手で行う予定しておりました解体作業こちらを遠隔で解体を行うことが必要ということで、
0:01:40	あとこれに加えて今後交換するインセルクーラーファンの解体も必要であると。
0:01:47	ということで、現状これらの追加の遠隔解体3から4ヶ月程度を要する見込みということで、
0:01:55	工程遅延の可能性が高い状況です。
0:01:58	ですので今その工程の組みかえ等により、リカバリーに努めているという状況でございます。組より代わりに、
0:02:08	これらの対応状況につきましては適宜面談等でご報告させていただきたいと思います。あと3号炉の製作状況につきましては4月28日までで、ガラスカレット試験ですねこちらの方の
0:02:23	試験後の設備関係の点検整備を一応すべて完了しております。現状3号につきましては、
0:02:33	各試験棟の方で養生して秋の試験に向けた受けて養生して置いている状況です。こちらにつきましてはこの後資料1の方で説明させていただきたいと思います。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:45	現状の進捗状況は以上となります。
0:02:51	規制庁の大嶋です。ただいまの説明に関しまして、規制庁の方から確認したいというコメント等ありましたらお願いいたします。
0:03:03	すいません。完了してた文章の中じゃです。
0:03:07	すいませんちょっと聞き逃して聞き流してしまったんですが、
0:03:15	土佐さんから4ヶ月工程が遅延するという件については、どうして遅延になってしまう、なってしまうということでしょうか。
0:03:26	はい。減少高モリカワです。
0:03:28	今行っております両型森βのコードリール、こちらの取り外したコードリールを、そもそも人手で解体することで、クリティカルパスにならないような形で計画を立てていたんですが、
0:03:46	かなり高線量であることで、人手で解体するとかなり被ばく、またその時間がかかるということでこれを遠隔で解体する必要があると。
0:03:57	ということです。この遠隔解体になりますと今3号炉の更新に向けたクリティカルパスの中の工程に入らざるをえないということでその解体作業で、3から4ヶ月程度を要する期間を要する見込みであると、そういうことでございます。以上です。
0:04:16	はい、承知いたしましたありがとうございます。
0:04:31	規制庁の嶋ですけれども、その遅延の影響がこの子、それどこに波及していくかなんですけど、3号溶融炉の設置計画等への影響もあるんでしょうか。
0:04:48	はい。現職の井川です。海田飯間の工程が遅延するとそのあとにもともとCriticalとしておりました解体場の%マニピュレータの更新整備。
0:05:02	3号、2号炉の撤去据付という形でこれらの作業が、基本的にその一連の作業の中で入ってきますのでこの解体が3、4ヶ月かかると全体的な工程に影響してしまうと、というような状況でございます。以上です。
0:05:20	規制庁の大嶋です。その遠隔での解体というのは、何か
0:05:28	新たに円架空し解体設備を設けなければいけないのか、それとも、そういう設備があって、ただ単に
0:05:38	もう少し慎重な作業になるので、少しそう
0:05:44	それ以降、工程が遅れてしまうのかという点はいかがでしょうか。
0:05:51	現職のこの解体の新たに設備と加瀬が必要というわけじゃなくて既存のその解体場の設備の中で解体する物量が増えると思っていただければいいかな。今まで行っていたものにプラスして、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:08	取りの解体が必要になってくれますので、そのコードリールの解体分の期間が増えると、そのような関係になっております。以上です。
0:06:21	規制庁申しました。ありがとうございます。
0:06:24	承知いたしました。
0:06:34	かーないでしょうか。
0:06:39	はい、それではですね、続いての説明をお願いいたします。
0:06:47	はい。続きまして工程洗浄の状況につきましてご説明したいと思います 原子炉機構の仲村です。
0:06:53	先週 5 月 11 日の面談以降の状況ですけれども、面談の中でお知らせしました、4 月 11 日に発生しましたスチームジェットの蒸気バルブのウエノ対応に係る
0:07:05	アユ立ち会いのご労苦査察については、順調に 5 月 10 日に終了しております。
0:07:10	一方ですね今週、
0:07:13	プルトニウム調査においてプルトニウム溶液の抜き出しが現在終わるところなんですけども、続いて洗浄作業をやっておりまして、その洗浄作業のサンプリングするための循環ポンプでの真空度が不足して液循環ができなくなったということで、
0:07:25	5 月 15 日の午後から作業を中断して調査を行っているところです。循環ポンプ自体は動いてますので、液の吸い込み側にあるバルブや配管等の継ぎ手部分、或いは、
0:07:35	循環ポンプ自体で新島猪狩。
0:07:39	今期の流入が考えられておりますので、現在確認を進めているところです。
0:07:43	処置としては、配管の接続部分のガスケットの交換とかっていうところです。そうすると交換とか、交換を想定すると、720 万程度の中断となると。
0:07:53	ということが予想されており、全体工程の影響が現在スケジュール見直しを図っているところです。
0:07:58	場所の特定とか或いはスケジュール見直し等の情報がまとまり次第、また面談等で情報提供を行いたいと考えております。なお、この循環ポンプやバルブ等すべて黒ボックスの中にありまして、
0:08:09	点検作業等で、当然あまり区域広がるということはなく、安全上の問題はございません。また、今週実施するとしていた蒸気バルブの詳細点検

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	につきましてはこの対応が終わり次第を行うこととしたいと考えております。
0:08:22	田浦の取り上げかかる事務については計画通り進めているところでございます。報告は以上になります。
0:08:34	規制庁の嶋です。ただいまの説明に対しまして規制庁から何かありましたらお願いいたします。
0:09:01	よろしければ、
0:09:04	すべて資料1の、
0:09:07	説明の方をお願いいたします。
0:09:10	はい。原子力機構ガラス固化での小高と申しますよろしくお願ひします。それを次TVFさん及び野川つかれた試験についてということで
0:09:21	本試験の状況に関しましては3月29日の規制庁面談にて状況をご報告させていただきましたが今回試験を完了しまして、
0:09:31	結果を取りまとめてございますので報告させていただきます。
0:09:36	まず1ポツはじめにということでTVFにおきましては令和6年度からの熱上げ開始に向けて作業の政策を進めてきておりまして、3月6日から4月11日にかけて容量の基本性能、具体的にはガラスの加熱溶解性、
0:09:52	流下開始、鉄製の確認を目的に、モッコカクサケンにございますモックアップ試験等において、空疲れ等も聞いた試験を実施しております。
0:10:03	ガラスカレットというのは後程写真でもす。写真が出てきますが、ガラス固化体系の放射性廃棄物成分非放射性同位元素に置き換えることで実際の廃棄物を含む、ガラスの物を見たガラスでございまして、
0:10:19	実際の廃液にはですねFP成分として、白金族元素が入ってるんですが今回基本性能の確認という目的ということで白金族元素は、避難用のものとなっております。
0:10:31	一つガラスカレット試験の概要ということで試験期間ということで5ページ名ですね、ウエノ表示ということでスケジュールの実績を示してございます。
0:10:43	3月の6日から熱上げ試験やると幼児試験とレイアウト試験、レイアウト試験終わった後の法令というところまで4%3交代で実施しております、
0:10:55	その後4月10日と11日ですね、道内観察を行って試験の方完了してございます。試験場所に関しましては、核燃料サイクル工学研究所のモックアップ試験棟ということで下の写真1のところですね、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:10	モックアップ試験棟内の予算上の設置状況を示す写真を、
0:11:16	を載せております。あとその写真にですね実際の試験の状況ということでガラスをお方料金に流し込んでいるところの写真を示しております。
0:11:28	で、1 ページ目、本文に戻っていただきまして (3) 番試験の内容ということで、表の 2 となります。6 ページ名でございます。
0:11:41	試験の流れに関しましては、まず値と上に図で示しておりますが、熱上げ試験ということで、
0:11:52	ガラスカレット内に投入した後ですね、間接加熱装置を用いてガラスを加熱します。ガラスが加熱溶融されますと、ガラスに電気が流れるようになりますので、
0:12:04	各電極間の通電を開始してガラスの溶融を行っていくというような流れとなり、なっております。その下にですねガラスがあるとの会館、ほとんど同じ
0:12:17	そこは同じものでございますが、階段を示しております。仮という試験、(2) のカルテル試験におきましては、
0:12:30	ガラスを溶融した状態から炉底部を加熱して固化体容器にですね、ガラスを流下してございます。本市におきましてはですね、1 回当たりの流下 50 キロ程度の部分流下を行ってございます。実際はガラス固化体本分ということで 300 キロのガラスを流すのですが、
0:12:49	流下上、条件の確認ということで 50 キロ刻みの流下を、を複数回行ってございます。
0:12:57	で、その辺ありまして (3) 番ドレーン試験ということで、炉内のガラスをすべて抜き出し操作を行っております。これに関しましては、
0:13:07	炉内のガラス減ってくる古藤来て曲がりやすくなりますので間接加熱を形容して、ガラス固化体 3 本分のガラスを抜き出すことで道内様からに、
0:13:20	する、そういった操作を行ってございます。
0:13:23	d す。
0:13:25	本文に戻っていただきまして 1 ページ目の (3) の分のところに確認項目ということで、まずうの①でタグチ件の確認項目に関しましては、
0:13:38	加熱事情の状態を確認するということで、熱上げ時の昇温性電極関する厳格な運動への作動性を確認することというのは、切迫する、しております。
0:13:48	②番、回答要旨検討いたせの中では、確認項目といたしまして、前の温度分布、具体的には補助電極温度 820 とプラマイ 5 度、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:00	それから水域、炉底運転からの加熱条件ということで、底部電極温度が745度以上になること。
0:14:11	あと溶融機能といたしましてガラス温度を1100度をプラマイ50度程度というところの確認、あと流下機能といたしまして流下状態といたしまして流下開始から、
0:14:23	よく推測50キロまでの長時間、目安として10分以内というところで設けております。
0:14:30	③番ドライアウト試験に関しましては、
0:14:35	ドレーンに伴う液低下に対応した流下条件を確認する。
0:14:41	を確認しております。
0:14:43	2ページ名となりますが④番炉内観察ということで、どの法令のですねどのような状態を確認いたしまして、確認項目といたしましては、炉内構造物、レンガ電極の健全性を確認するという、
0:14:58	いうあった確認項目となっております。3ポツ、試験結果といたしましては、加工も食う確認項目でですね確認結果を評価いたしまして、NU-Lと同様の運転パラメーター
0:15:14	具体的には運転、溶融条件、到底運転からの加熱条件、流下条件等を、により設定した安定基準を満足した、うん。
0:15:24	運転が可能であり、3号炉の基本性能を満足しているということを確認してございます。
0:15:30	個別の試験結果に関しまして、まず①、熱上げ試験に関しましては、3月6日からですね、間接加熱装置を起動して熱上げを開始してございまして、
0:15:42	内閣部の省に伴いまして、3月18日から21日にかけて、主税局間通電をはじめとする四つをつ
0:15:54	連携等ございまして、それぞれの通電系統で通電が行えるということ
0:16:00	確認してございます。
0:16:02	で、三つ目のレ点のところでございますが、熱上げ期間中におきましては各温度計までんきや食う等について温度計から村道等ですが、
0:16:14	こういったものが正常に作動し各部の温度上昇に異常がないことを確認してございます。図の1ということで7ページ目にですね、
0:16:24	熱上げ試験におけます温度等の変化を示しております。間接加熱装置、Gというのがいろいろの、上部の方に取りついてございましてそこからそこに発熱体が入っておりましてその発言伝えによって、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:41	電気を流すことで
0:16:43	間接加熱装置の運転を行います。それに伴いましてその各部門がですね、ここに示す通り、上昇するという正常に上昇するということを確認してございます。
0:16:56	本文戻っていただきまして2ページ目となります。②、パレット溶融試験ということで3月22日から3月26日にかけて、
0:17:08	2. %メーターを調整しながら、1回当たり50キロのですね、部分追加を計5回実施してございます。
0:17:15	3ページ目となりますが、
0:17:19	この試験を通しまして自然許可電力をですね、39kW参って2時間これは2号炉の運転条件となりますが、そうすることでガラスの溶融状態、具体的にはガラス温度1100度、プラマイ50度程度を打ちできることを確認してございます。
0:17:37	また、主電極食うの底部電極のですね、強制空冷用、あと補助電極間レギュ等を調整いたしまして、白金族検層のですね、予定の沈降を堆積を抑制するために、
0:17:53	行っております炉底低温運転、具体的にはガラス温度1100、1100\$に対して、補助電極間、補助電極の中高さにおけるガラス温度850度、
0:18:06	維持するための補助伝票ボンドをですね820度プラマイごとで、維持するんですがこれが行えるということを確認してございます。具体的には図面2ということで、8ページ目にですね、
0:18:19	川手洋二試験におけるを通しての温度等の変化を示してございまして、一番上のですね、赤いリザルトとなっている線が、これがガラス温度をのトレンドを示してございまして、
0:18:32	景品等によってガラス温度変動しますが、概ね1100度プラマイ50度を、の範囲で維持できているということを確認してございます。
0:18:43	その下にですね、赤い線の下に黄色い線と白い灰色の線がございまして、これが補助電極温度となっております。補助電極を5テーブルに二つせ、据えつけておりますので、
0:18:57	温度も2ヶ所で測ってございまして、このうちの高いほうの補助、補助電極の温度とありますがこれが820とプラマイ合同で、
0:19:07	コントロールできることを確認してございます。
0:19:11	本文3ページ目戻っていただきまして、上から三つ目のレ点となります。流下操作に関しましては、このような炉底低温運転の状態から、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:24	流下開始予定の5時間前、こちら2号溶融炉の作動試験の実績の条件となっておりますが、そこからですね、補助電極間通電が主電極流下ノズル管通電により炉底部を加熱し加熱して、
0:19:39	流下前の準備として予定分を加熱いたしまして2号要領に適用している流下の図を、加熱を開始するための条件、これは底部電極温度を、が720度以上になってないといけないのですが、
0:19:53	そこまで証言できるということを確認してございます。また下の0.2になりますが、この炉底加熱のですね、流下濃度
0:20:03	今から出た加熱コイル、ここに交渉を流すことで高所から流下ノズルの交渉加熱が行えるんですが、この加熱により農業に適用している、流下をお返しするための条件、これは740底部電極温度が745度以上ないと。
0:20:20	流下ができないということになってるんですがそこまで昇温できるし、できるということを確認しております、最終的に流下を開始することができております。
0:20:29	業界におきましては、流下速度の立ち上がり及び流下ノズル先端付近の計画うかがガラスの状況から、状況をですね、カメラで監視しております、その状況から安定した流下が行えるということを確認して、
0:20:44	でございます。具体的にその流下速度の立ち上げに関しましては、流下開始から流下速度、1時間当たり50キロというようなところまで、
0:20:54	到達するまでの所要時間として10分以内を目安としておりますが、それに対して今回の試験では大体3分から4分ぐらい。
0:21:02	の結果が言われております。流下の実績に関しまして図が3というところで9ページ目に示しておりますこちら部分というか2回目へのですね、
0:21:13	実績のところのところの、
0:21:17	トレンドを拡大したものでございます。下の青い線とを、
0:21:25	色の線、これが補助転換し電力関連で言うと主電極間でこれも段階的に上げていくことで、炉底部が徐々に加熱されます。一番、炉底部に設置されております底部電極の温度がですね、
0:21:39	徐々に上昇して、先ほど説明しました
0:21:42	流下ノズルを加熱するためには720度以上を720度以上ないといけないんですがそこまで処分できることを確認しており、そのあとですね、流下ノズルのもう高周波を加熱を仮校舎加熱を開始して、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:57	流下を開始するための条件として、700 底部電極の温度 745 度以上に加熱できるということを確認してございます。
0:22:07	そのあと流下を開始しまして青で示した流下速度が、スムーズに立ち上がっているということを確認してございます。
0:22:19	本文の 3 ページ目戻っていただきまして上から五つ目の折れ点になります。この理由この理由カーをですね停止するための操作停止時の操作といたしましては、
0:22:35	流下ノズルを兼ね、床の所の加熱を停止して、流下ノズルルーの強制空冷、流下ノズルにですねアックを吹きかけるというような操作を行います。
0:22:45	そうしますと図内のガラスが冷えて、流下が止まるということ等になります。これが今回の試験で、流下を確実に停止できるということを確認してございます。
0:22:57	この流下で一つはですね、下バルブ日にひねってすぐに都丸みたいに停止操作をしてすぐに止まるというわけじゃなくって、徐々に冷えて過程の中、中でというかを提出をさしてから、停止操作を開始してから、若干停止するまで、
0:23:16	しばらく流下クラスが流れるということになるんですが、流下の加熱電力の調整により流下速度を制御しまして、いうか停止操作を開始してから流下が停止するまでに低下するガラス重量ですね。
0:23:30	うまく調整できるということも、岡くん今回確認してございます。
0:23:34	また、一番下の 0 点でございますが、炉内へのガラスカルテの追加供給によってですね、岩石が私は上昇したときに、で、この要因はレベル麻生というガラス液を検知するための、
0:23:50	空間がございましてそこでガラス液位計これは電気抵抗式を用いてましてこれが正常に作動し、流下操作に必要なとなる岩石がですね、
0:24:00	検知できるということを確認してございます。
0:24:06	最後に③番ドレーンの試験ということで、実績といたしましては 3 月 27 から 29 にかけて、ドライアウトをガラス固化体 3 本分の流下を行うとき、
0:24:19	となっております。堂本におきましては、間接加熱装置を併用しまして規定化に伴うガラス温度の低下を抑制するとともに、
0:24:31	ガラス液が全部低下していきますとガラ数、主電極の表面がですね露出してきてございますので、選挙表面の露出に伴う通電面積の減少に応じ

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	て、主電極間電力を下げることにより、電気を食うの予算を募集しつつ、I V A Sをほぼ全量
0:24:49	抜き出せるということでございます。
0:24:55	その実績に関しまして増減ということで10ページ目に、等の都市圏におけます温度等の変化を示してございます。左図の方にですね、
0:25:07	このドレーン、滝井の液面の変化をお示ししてございます。一本目の流管の改修内容ですね、ご覧の通り
0:25:18	年電極食うというものがすべてがズー。
0:25:22	現状でもございますが、1点目の流下開始した後ですね。
0:25:33	自然経過の上端が露出して3番目流下開始前までに回収にはですねほとんど型しか接触していただいていないというような状況となっております。
0:25:44	こういった状況を踏まえましてですね、間接加熱装置の電力を投入して補助的に加熱を行いながら、レイアウトの方を行いまして、
0:25:56	最終的にこのグラフのですね、右下にドライアウト完了時の未来の状況ということで写真で示しておりますが、まだちょっとガラスが今月、表面については参考ですので赤くなっていますけど、
0:26:10	真ん中のところにですね、底部電極予定ブーに設置された底部電極の形がくっきり、飯村のところまでガラスが抜き出せているということを確認してございます。
0:26:23	本文戻っていただきまして、4ページ目の④、炉内観察ということで、どの後完了してしましてから、加熱電源をすべて停止しましてこれを行った後、4月10日から11日にかけて炉年観察を行ってございます。
0:26:41	観察の結果ですね、炉内構造物、人が電気を食うの健全性に問題がないことを確認してございます。結果ですね。
0:26:52	大砲に関しましては要員の割り掛けず目地部の開きがないことを確認してございます。ちょっと方に関しましては、気相部ですね、上の方の沿岸なんですけど、こちらの大会に一部確認されておりますが、
0:27:06	また猪狩の指導職の熱膨張の収縮による生じたものでございまして、この容量の運転まで欠損が拡大するものではないというふうに判断してございます。
0:27:16	電極に関しましても、ヨウ素等の損傷がないことを確認してございまして、炉内観察IIの写真に関しましては図の
0:27:27	5ということで11ページ目に示してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:31	炉年関節痛ですね、回収した時は右上にある通り、法令の過程の中でレンガや電極の表面についてガラスが冷え、冷えることによってちょっと一部割れてですね、
0:27:45	細かいガラス線が下に予定日にたまってましたので、これを掃除機で回収して、底部電極上電極がきちんと観察できるようにした状態で健全性を確認してございます。
0:27:59	社長の通り全体的に黒くなってますが表面に g r a s s がですね、薄く付着した状態となっております。
0:28:06	最後先ほど文書で説明しました基礎分、耐火レンガの欠けに関しましては下の
0:28:13	写真にございます通り深さ約 2 センチ程度の筧でございまして、こちらに関しましては念願メーカーにもちょっと確認していただいて、今後の運転に影響するものではないということを確認してございます。
0:28:31	本文 4 ページ目に戻っていただきまして、④番の三つ目の店舗になりますが、今回炉内観察とあわせまして流下ノズルの位置計測を実施してございます。
0:28:44	ガラスカレット試験ラインでもですね、1 計測を行ってまして、その g r a s s 式試験前のもですね、1 に比べ知久の後、最初の運転に伴う耐火レンガの熱膨張熱収縮により、
0:28:59	主電極のがの方向にですね 1 ミリ、水平移動してるということを確認してございます。
0:29:07	また、流下ノズル傾きに関しましては、令和 9 年度日本用の運転において、流下ノズルが傾いて、加熱コイルと接触したことによって流下停止事象というところが、
0:29:22	発生してございますが、この対策として講じたその流下ノズルを取り付けております今ケーシングという、
0:29:30	板のようなその部品があるんですけどこの構造をですね、映画を非対象構造から対称構造に変更したことで、今回ですね傾きが生じていないということを確認してございます。
0:29:45	この最後の加熱コイルですねの組み立てに関しましては、第 3 四半期に運転条件確認試験を行うんですがこれを行った後もう一度計測しまして、
0:30:00	その結果を踏まえてですね、ちょっともう一度補足しましてですね、1、加熱コイルとの打ち合わせを行って、組み立てを行っていく加熱工場の組み立てを行う予定となっております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:12	本日今後の対応といたしまして今回の小椋塚越県において2グループ同様の運転パラメータにより運転が可能であり、基本使用料の基本性能を満足していることを確認ということができて、
0:30:29	今年度第3四半期に予定しているもの廃液を用いた運転条件確認試験に向けてですね、今現在、目に入る廃液ですね、ございます。
0:30:40	運転条件確認試験におきましては、実際の配当同様、当然に白金族元素を、これを含んだ上で排気を使用しまして、3号の実際の運転に用いる停電時運転時の条件の確認を行うとともに、
0:30:55	現在、検査の体制管理表ですね、研究の改善に向けたデータの取得を行っていく予定となっております。また一方PDFにおきましては、
0:31:07	今後2号ウエノ撤去作業としてですね、今年度第3四半期より5行の負担は担当の撤去作業に着手する予定となっております。
0:31:19	その他12ページ目以降ということについて参考用参考資料として添付させていただいております12ページ目は産業の鳥瞰図。
0:31:29	そして、13ページ目はこれまで公開会合でも今後ご紹介させていただきましたが有用運転方法ということで、TVFの要領では採用していません。上予定で運転ですね。
0:31:43	この説明図をつけさせていただき、
0:31:46	いただいております。14ページ目から、
0:31:51	17ページ目までが、約20年前となります現行溶炉間に5行遺漏のですね、作動試験時におけます実績というところで、
0:32:02	熱上げが溶融試験のレイアウト等ですね、そのときの温度等の変化を示してございます。
0:32:12	長くなりましたが説明の方は以上でございます。
0:32:18	規制庁の嶋です。ご説明ありがとうございました。
0:32:22	規制庁の方からですね、ただいまの説明に対しまして、コメント、確認点等ありましたら、お願いいたします。
0:32:42	規制庁の嶋ですけれども、
0:32:45	一応基本的な運転性能は今回、問題ないということで確認できたということなんですけれども、2号、最後にご説明があった、2号溶融炉のですね最初の打上Gの
0:33:00	試験結果と比較して何か3号溶融炉で何か特徴的なデータがえられている、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:08	ということがあればちょっとご説明いただきたいと思います同じようなトレンドでしたということであればその旨ご説明いただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。
0:33:20	原子力機構開発部甲田でございます。すいませんちょっと説明のところ でちょっと一部抜けてたところがございます、2 ページ2 のですね、 ①の熱上げ試験の料金の利点のところ、
0:33:35	ちょっと今回概ね大体2分とですね、同じような
0:33:41	てというのがちょっと確認はできているんですがちょっと熱さんに要した 時間、熱上げ開始からですね、自然局間通電完了までに要した期間とい うことで、今回の実績、約11.8日というところですが、
0:33:56	逃げ現行の日本融度を平成15年5月における地区のですね最初の熱上 げ時の商業運転の時間がちょっと10.3日ということでこれと比べると約 1.5日ほど
0:34:08	遅かったというところもございますが、これはちょっと初回能熱上げと いうところで、リーマンに含まれてる水分の蒸発等に熱を奪われるとい ったそういったこともございますので、これに関しましては次回、次回 の運転条件確認試験、これが2回目以降の
0:34:26	値下げになりますから、中の水分をすべて除去できてる状態で野田での お値段れた事になりますので、そこでもうちょっとですね、熱上げ期間 というものを確認して、
0:34:39	実機に用います、熱上げ期間を設定していきたいというふうに考えてお ります。以上でございます。
0:34:48	村長の牛田です。そうしますとただいまご説明のあったその熱 g a g e の所要時間を除けば、概ね同じようなトレンドだったということで理解 をいたしました。
0:35:01	またその別紙1の、時間の影響については、
0:35:07	藤氏、
0:35:10	もう少しこう戒めていたとかそういったところが影響しているというこ とでそれも次回、確認するというので、理解いたしました。
0:35:29	宗佐藤。
0:35:32	11ページの都合で、
0:35:35	炉内の観察の運用数を示していただいておりますけれども、
0:35:46	小道右側の図ですかね補助電極を示していただいているんですけどちょ っと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:55	私の補助電極がどこにあるのかちょっとこれだとよくわからなくてですね。
0:36:00	これ、
0:36:02	基本的に表面がだからそれを割れてしまっている、いるので、
0:36:06	ちょっと電極自体は、ちょっとはっきりとわからないような構図になっているんですかね。
0:36:14	原子力小高でございます。C層ですねうっすらと電極と大会での阪井のところはですね、
0:36:26	わかる、よく見ればわかるんですがちょっとわかりづらかったので今回ちょっと黄色NO. 1000 ですねこの境界電極と、
0:36:35	耐火レンガのですね、境界のところをちょっと黄色の線でちょっととりあえずさせていただいております。
0:36:45	何かここでこの丸で囲っていただいたところが何でしょう、色が変わっていたりするんですけど、これは電極自体が、ここ気づいているわけではなくってその上に乗ってるがら数、
0:37:00	貸越こうん等、
0:37:02	崩れたりして、こういった色の違いが出てるっていうことでよろしいですか。
0:37:09	はい。原子炉機構小高でございます。はい。その通りでございます。法令の過程でですね、ガラスが冷えて、固まった今ちょっと表面薄いガラスですので、
0:37:19	それでちょっと割れてしまうというようなそういったことで所々ですね、電極の表面が見えていたりというようなそういう、
0:37:28	そういう状況となっております。
0:37:31	規制庁申しますありがとうございます。
0:37:34	あと、詳細のやっぱこの図を見ると、どうでしょう。すり鉢状。
0:37:41	今日聞いているんですけど、やはりこう壁があるような、見え方をする主になってるんですけど、これは
0:37:49	本当にな、なだらかなこ表明なってるってことでよろしいんですね。
0:37:53	そうですねちょっと前から見ると、煉瓦との境界がちょうど8筧のようにちょっと見えてしまうというところでございますが、価格売れんが斜面上がちゃんと局面になってまして、
0:38:07	塩水の形状となっております。
0:38:14	拝聴オオシマです。はい、承知いたしました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:21	それから、8ページの次、115の変化のところで、
0:38:31	これは電極のAとBの運動を示し、今ご説明していただきましたけれども、もう少しAとBで、若干補佐。
0:38:42	若干差があるのかなと思うんですけどこれは誤差範囲、
0:38:45	という認識なんでしょうか。
0:38:52	すいません。ガス原子力の小高でございます。事、おっしゃっているのは衛藤元ベースで、
0:39:03	とは灰色と黄色のトレンドがあると思うんですけどそれって事で結局Pのトレンドでまず間違いなかったでしょうか。はい。
0:39:15	はい。はい。この言い方になりますけど若干ずれ誤差があるのかなと思うんですけど下がるのかなと思うんですけどそれは防災の範囲ということでしょうか。
0:39:27	こちらはですね、
0:39:31	左上の図を見ていただきたいんですが、容量の構造とし、いたしましてこれ、ちょっと日本よりも同じなんですが、東京電力のB側の電話の渥美とですね、
0:39:43	補助電極側の連渥美というのが、ちょっと側の方がですね、レベルアースを設置している都合上厚くなってございます。
0:39:55	ということでちょっと断熱性という観点で補助電極、bの方が若干ですが断熱性が低くなっているというところで、Aに対してBが
0:40:10	若干低い温度を示しているというような状況となっております、この傾向は2号炉と全く同じでございます。
0:40:21	町長の嶋です。ありがとうございますちょっと工場の違いで少し僕出てきてしまうということで、廃止いたしました。
0:40:35	また、学校活動も、そういったところもしっかりデータとれてるってことです。
0:40:45	そっか、規制庁の方から何かありますか。
0:40:52	書類ですけど、4ページの一番下、一番最初に説明していただいた、連絡ということで3、4ヶ月遅延となっていたんですけど、こちらには、
0:41:13	提供した。
0:41:15	せっかくのに、
0:41:17	期間にやるということでしょうか。
0:41:21	保険商工モリカワですこちらの方のスケジュールはですね先ほど説明したコードリールの遠隔解体で、3、4ヶ月遅延するってということもあり、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	いろいろそのほかの先行者できるものはあるかどうかというところもあって今
0:41:41	現状ももとのスケジュールで、付帯配管の方は、撤去前に着手できるってことでもともと第三者からやる予定にしております、
0:41:51	今後先ほど言ったその高度理由の解体を行う上での遅延分で、何かそのリカバリーできるかどうかということでもともとこの辺の付帯配管の撤去作業等についてちょっとその工程を少し見直す予定にはしていますが、
0:42:07	これ言ってるのはもともとここら辺から2号炉の撤去を開始するという意味でこの方に記載しております。以上です。
0:42:17	ありがとうございました。
0:42:34	植田です。11ページ
0:42:38	の図問5で示されてる
0:42:41	決算分っていうのは、基礎気相部だっていうのはわかるんですけど、
0:42:46	例えば12ページの鳥瞰図でいうと、
0:42:50	どの辺だっていうのが何かわかりますかね。
0:42:54	はい。今回はそこ、小高でございます。この図でいきますと、ですね気相部
0:43:03	i 家電気相部レンガという矢印が引いてありますがその矢印の、
0:43:10	知見、
0:43:11	先端よりもですね、少し上のところろくに、ちょっとこの図だと何、見えてないんですが、とは、
0:43:21	齊木与儀の排気の出口というところがここに横からいろいろな側面から貫通してるところがあるんですけど、とそちょうどその辺りでございます。はい。
0:43:34	はいわかりました。
0:43:36	李今さん。
0:43:38	欠損したレンガっていうのは回収されてるんですかね。
0:43:45	原子力法から坪田家でございます。はい。こちらでもですね回収してございます。具体的には11ページ目の写真の右下の写真で
0:43:57	いきますと、頸部電極のですね、ちょっと丸を書いているところ、ちょうどここですね、右下辺りにちょうど掛けたレンガが
0:44:07	落ちてましてそれをその時期で回収し、回収して確認してございます。現状関井もかけまして、気相部の耐火レンガの組成だということも確認してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:25	それで、
0:44:28	下には影響中、
0:44:33	ていうことなんですかね。
0:44:37	はい。議会にはもう全く影響がございませんでした。はい。
0:44:42	もともとですね、この要領の構図でそういった上から配管がかけて落ちてきた時に流下ノズルルーの穴が詰まらないように、このような
0:44:53	底部電極というのはスリット構造になってて、ここで引っかかるようになっております。はい。
0:45:02	はい。国鉄醜くって、もう、
0:45:06	特段補修、レンガの補修とかってするわけではなくて、
0:45:11	この状態で維持していくっていうことですかね。
0:45:16	はい。この状態で全く支障ございます。今後の県市町ございませんので、得な補修は行う、行う必要はございません。
0:45:27	大井。
0:45:33	残った、うん。
0:45:35	すいません。
0:45:49	すいません。
0:45:51	規制庁の嶋です。
0:45:53	4 ページのですね、④番なんかは社長の一番最後の 0 件のですね、一番最後その C A M S 小井土の組み立てでの運転条件確認試験の計測結果を、
0:46:08	を踏まえますということなんですけれども、これも、
0:46:12	何でしょう、この
0:46:13	株式にも設置されている、
0:46:18	状態で、そのまま等、
0:46:22	決める F の方に持っていくわけではないということなんですか。
0:46:29	衛藤。
0:46:31	今ですね
0:46:34	試検討についています加熱コイルはちょっと試験用の加熱コイルでございますので、実際運転条件確認試験が終わりましたら、その試験用の加熱コイルを取り外して、
0:46:47	流下ノズルの位置計測を行ってそれに応じて実際に T V F 交換する内で用いる加熱コイルを製作するというような、そういった流れとなっております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:01	規制庁の新村です。
0:47:04	そのポイントだけ別に試験用と実際の運転用に分けられてる理由っていうのは、こういったところにあるんでしょうか。
0:47:14	加熱コイル江藤小高でござい。原子力小高でございませう。流下のズルー自他言いは
0:47:26	土佐。
0:47:27	最初の初期の運転においてですね耐火レンガの熱膨張熱収縮によって多少動いたりするところがございましてまだちょっと試験の段階では
0:47:40	加熱コイルの1名、位置がちょっと定まらないというところがありますので、踏まえてですね、
0:47:48	実際の加熱コイルを使用するというに、製作するという、
0:47:55	計画等をしております。
0:47:59	一緒にちょっと後でしたら、
0:48:01	わかりました。承知いたしました。ただ試験用の声でも、実際の今後製作予定を超えても、全く同じような設計で、性能には差が出ないように、J I S A、
0:48:15	設計されるということで、間違いないでしょうか。
0:48:20	はい。一応そうですね1計測を踏まえて若干ちょっと変わりますが、こういうのを機さあ等寸法は変更は、実機で使っているものと、また同じものでございませう。
0:48:34	久田芝です。承知いたしました。
0:48:47	トウカ規制庁の方から何かありますでしょうか。
0:48:56	よければ、続いて資料2の、
0:49:00	オキモトスゴウお願いいたします。
0:49:04	機構の打田です。はい。それでは資料2についてご説明させていただきます。この資料はですね、5月隆起のコメントを踏まえて修正してございまして、修正箇所については下線引きということで記載してございませう。
0:49:19	元のところですが、それと加瀬引いてございませうけれども今月、液体窒素設備を津波漂流物対策として撤去いたしますので、
0:49:29	2段落目のところではございませうけれども、液体窒素設備が有する空気圧縮機の自動バックアップ機能は閉じ込め機能等に影響がないということで、安全上の要求はないものの、当該設備撤去にあたっては運転操作時の利便性こういったものを向上させる目的で、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載してございませう。発言者による確認はしてございませう。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示してございませう。

0:49:47	既設の空気圧縮機自動切り換え機能、こういったものを付加し、空気圧縮機の連続評価を行うこととしたいと考えてございます。そこで本資料をではですね、
0:49:58	圧縮空気の供給時における安全性こういったものを整理いたしてまし、3ポツのところでは空気圧縮機の連続供給の方法について整理いたしましたというところがございます。
0:50:10	こちらで前回図の方で故障診断についてちょっとコメントいただいておりますので、図のほうを整理しております。また、図1をご覧ください、3ページの図1をご覧ください。
0:50:23	こちらの分は、現状の図でございまして、空調層の圧力低下、こちらのバックとその上の方に引いてございますけど、
0:50:34	こちらの圧力低下を検知して、こちらの信号が制御室と
0:50:40	液体窒素設備のバルブ、こちらの方に信号が供給されるということで、この信号を検知して、バルブが自動で開き、窒素ガスが供給されるというところがございます。
0:50:54	あと下側、図1の下側のボックスですが制御室で表示されるCOOでございまして、注意報とか警報運転表示等が表示されるという状況でございます。
0:51:06	続きまして、申請日でございましてこちらが定型改造後の図となります。
0:51:15	現状の起動スイッチこれ手動ですけども、これを切り作業者をダブル3割の委員の方に設置いたしまして、302の方の制御盤で、予備機に切り替える信号として、
0:51:28	ボックスの方で困ってございますが、油圧低下注意ですとか温度上昇圧力異常ブレーカトリップこういったものを受信し、予備きりへの切り換えを行います。
0:51:41	ちょっと図の直上でございますボックスでございますけど制御室で表示される信号は、現状と同じです。
0:51:48	あと、保障新聞の詳細については別途参考2の方に整理してございますがちょっと説明については一旦ちょっとぱっと見、
0:51:57	本文の方に戻りまして、2ポツでございます。
0:52:01	圧縮空気の停止時における安全性でございますけれども、圧縮空気自体の換気系統ですとか、計測制御系統をユーティリティー系で処理しているという状況でございます。宇津佐野は特に変更はございません。
0:52:16	圧縮機の方が供給した場合は、一つ三つで書いてございますが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:24	系統において会社調整機能等が失われるという状況ですが、また、各論については、安全の問題はないということを整理してございます。
0:52:33	まず一つ目のポツですけど、換気系統でございまして、負圧指示調節計の負圧監視ですとか、調整機能が失われるという状況ですが、
0:52:43	換気調整ダンパが安全側に働き、施設内の負圧は維持されると。
0:52:48	こういう状況でございまして。
0:52:50	2ポツの計測制御系統ですが、貯槽液系ですとかセル漏えい権限装置の機能が失われるという状況ですけど、そもそもセル貯槽、これ78立米でございまして、
0:53:02	こちらの2杯有する配備の液量が20、約20名ということを組成これはいずれも放射性物質の濃度が検出下限値という状況でございまして、こういった状況から仮に貯槽から漏えいしても1000は広がらず、
0:53:15	早急な対応は要しないという状況でございまして。
0:53:19	三つ目のU T T系ですが、不作動弁の操作ができないという状況になりますので、このうち浄水場水のうちの、廃業損益するポンプを呼び水と仕様書として、
0:53:32	使用してるところこちらの救急機能が失われるという状況で、廃液のうちV a n A Wこちらの損益は行えなくなると、いうところでございまして、こちらの通り、
0:53:46	状況がございまして、こちらに一時的な整理を抑えることができるため影響はないと、こちらについて衛藤区長の提示により率でございまして。ちなみにですけどV a R夏だ。
0:53:56	暑い時期に4ヶ月程度、空調化しますのでその間ちょっとせつ発生するという状況でございまして。
0:54:02	3ポツの繰り返し空気の連続供給の方法でございまして。
0:54:06	液体窒素設備の撤去に伴いまして当該設備を有する空気圧縮機の自動バックアップ機能がなくなるという状況ですので、運転操作時の利便性、あくまでも利便性を向上させる目的で、
0:54:17	その代替として江田切り換え機能を付加して、振幅圧縮機の故障停止時、この停電時も含めてですけれども、圧縮空気の連続教育を行うこととしたいという予定です。
0:54:30	その工法として考えられるのは、都丸二つございまして、一つ目が、①として記載してあります通り、液体窒素設備の場合に可搬型の
0:54:41	空気圧縮機をつ追加する方法と、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:43	二つ目の、期せ従前ご説明してる通り既設のクリア湿布を活用する方法を制御系の改造ということが考えられます。
0:54:52	①可搬型の繰り返すべきを用いた場合は、時、この具施設の空気圧縮保障し、故障検知し、例えば、既存の
0:55:02	圧力低下信号をこれを受けて、可搬型の空気圧縮自動を起動させる専用ファイルを設ける必要があるということでございます。また、
0:55:13	丸井の場合は、必要な圧縮空気の流量は100立米%程度ですけれどもこれをここするために、設備、一定の記載があるということで、屋内への搬入ですとか、設置は困難という状況でございます。
0:55:27	屋外に設置する場合も設置場所の整備ですとか、電源これ費、
0:55:32	非常用発電機系と、そういったものの確保のため、一定の工事妨害な工事が必要となる状況でございます。
0:55:39	また、そうした場合の新たな解禁会計機が増えるということで、保守対応が増加するというので、空気圧縮機、プレスリリースの紙、施設の方でございますけれどもこれを維持する期間に限定したとしても、
0:55:52	我々としては合理的ではないものと考えてございます。
0:55:55	で、②の既設の空気圧縮を活用するという方法であれば、制御系の改造と弁の自動化、こういったものを行うことで、既設の空気圧縮機に自動切り換え機能を付加すると。
0:56:07	ことで、新たな解禁、回転機をふやすことなく対応できるということでございます。これの空気圧件故障停止時の対応ですとか、通常の点検月齢切り換え、
0:56:18	そういったものができるということで運転操作上の充足性ですとか利便性が高まるという状況でございます。このため我々としては、空気足への制御系の改造を行うこととしたいというふうに整理してございます。
0:56:33	用途への自動切換機能と性能維持施設の関係でございますけれども、空気圧縮機の制御系の改造により付加され、される自動切り換え機能そのものを、閉じ込め機能ですとかそういったものの影響がないので性能維持施設には該当しないと。
0:56:47	いうふうに考えてございます。
0:56:49	5ポツについては変更もございませんというところの説明については以上でございます。
0:57:00	規制庁大柴です。ちょっとただいまの説明に対しまして規制強化のコメント質問等ありましたらお願いいたします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:17	すいません規制庁の三嶋です。2 発で安全性について、松井希衣のありがありがとうございました。
0:57:28	二つ目のポツでですね、藤清瑠羽んの検知の機能についてこう書かれておるんですけども、
0:57:38	すいません。
0:57:42	江尻及び写生から、汚染は広がらないという記載を書い記載になっておるんですけども、
0:57:55	ちょっとこの記載がちょっとよくイメージができないんです。汚染が広がらないって古藤のイメージがちょっとできないんですけども、そもそも、ここも
0:58:08	文書貯槽に入っているんとはいえ、一井の濃度がかなり
0:58:16	薄いもの。はい。
0:58:18	ているのかなとは思っていて、狩野様が漏れ、
0:58:25	でも、
0:58:27	なんでしょう。
0:58:30	かなりショオ口。
0:58:32	薄いものなので、
0:58:35	申せ、そもそも汚染、
0:58:38	しませんっていう説明なんでしょうか。
0:58:44	ちょっとこのところはちょっと理解が難しかったんでちょっと1 度ご説明いただきたいなと思うんですけども。
0:58:53	臨床機構の千田です。今日天然魚をかけていますけども、ここはもう、
0:58:58	過去には放射性物質が検知されていた具体的な取り組みですけど、そういったものが検知されてるような廃棄が入ってるという状況で現状は、
0:59:08	入ってるのは検出下限値という状況です。これ健全性確認のために供給した水、プロセス液じゃなくて水を入れているという状況で、
0:59:18	検出下限値ではあるという状況で一方で液量が少ないということと、あと、どうしたとしてもせる。
0:59:26	もう、方に閉じ込めは維持されるということでそれ以上の汚染は広がらないということで、こういう記載としております。以上です。
0:59:37	どちらかというとセブンで取り込む機能が、
0:59:42	せめてこうと決められているのでっていうことなんですかね

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:50	現状機構の打田です。はい。その通り。ただ、ケースが現状のところは、ちょっと宇和保証がないので、ちょっとこういった書き方となってます基本的に閉じ込められるということで問題ないと考えてます。
1:00:10	そうずっと今企業と写生から個性が広がらないところを記載していただけるんですけど、
1:00:17	もう、そもそもセルの中にあるので、汚染はセルの中で、漏れたとしても、
1:00:24	請願書の中に限定されますよっていう、趣旨は、
1:00:30	説明になるってことでよろしいですか。
1:00:35	検証機構の打田です。基本的にその通りでございます。
1:00:38	承知いたしました。
1:00:42	すみませんすべてこのユーティリティ系の説明でごめんなさい、廃棄でV L、
1:00:49	Wで記載させていただいてるんですけどちょっと勉強不足で恐縮なんついてるW t なのでしょう。
1:00:59	県許認可上の扱いは、
1:01:04	極低放射性の廃液という呼び名になります。
1:01:08	なので元に、放射性物質濃度低い海域と同じ。
1:01:14	町長の島です。それは国調から出てくる伴駅ということでよろしいですか。
1:01:21	長高野です。ちょっと聞き漏らしたのをもう一度お願いします。はい。規制庁嶋です。その極低レベルの廃液というのは、が空調から出てくるような、
1:01:33	配置ということでよろしいでしょうか。
1:01:39	原子炉機構の内田です。クリープその施設でV A Tのこの区長は1手洗い水となります。
1:01:46	以上です。
1:01:49	規制庁島です。はい、承知いたしました。
1:01:54	江藤。
1:01:56	一応空調停止等により発生量を一時的におっしゃることができるということですがけれども、空調は特に、
1:02:05	必ず
1:02:07	入れておかなければならないとかっていうものではないのでしょうか。
1:02:13	鄭助教の打田です。ここの空調ですけど、野瀬制御室。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:20	方、方今室ののに空調を入れて出るという状況でこれは夏場の高温対策ということで入れてございまして現状 28 度設定で夏場運転するという状況なので、
1:02:32	その液量の貯蔵状況によって設定温度を高めて凌ぐとか、場合によっては完全に運転を止めて、可搬型のスポットウェアこういうような
1:02:42	工場のクーラーとかあるんで、そういったもので代替する、することをちょっと考えてます。以上です。
1:02:50	規制庁嶋です。はい。指針の点については承知いたしました。
1:03:01	それからごめんなさい 4 ポツの自動切換機能と性能維持施設数の関係についてということなんですけれども、衛藤。
1:03:12	こちらに軌道切り換え金機能そのものは、云々かんぬんって書いていただいているんですけれども、
1:03:19	これは日本通運、
1:03:21	すいません。どうぞ。
1:03:23	閉じ込め機能に影響がないことからってこう記載をしていただいて、
1:03:27	いるんですけれども、それはここにポツでご説明していただいた内容。
1:03:33	と絡む話なんでしょうか。
1:03:39	減少機構の打田です。今のご指摘 4 ポツのところの、自動切換そのものは、閉じ込め機能に影響がないというご指摘と思います。こちら 2 ポツのところ当然
1:03:54	圧縮空気自体は、
1:03:58	供給をする必要があるということでございましてその連続性までは要求されてないってことで、
1:04:08	この自動切換機能自体は、その A 統制の技術ではないとちょっとそういった整理でございます。あくまでもその圧縮機で圧縮圧縮機、空気圧縮機を使って、
1:04:20	区長さんに、圧縮空気を供給するという機能が求められているというところで自動切換自体は、求められているんでちょっとそのような整理を考えています。
1:04:32	そのような整理をします。
1:04:40	規制庁の大島です。先ほど連続性という話が出ましたけれども、連続性を、
1:04:48	連続的に供給性する必要があるということについてここにも、2 ポツで、多分ご説明いただいているものなのかなと思っていて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:58	こういうことなので、自動切り換え機能自体については、性能維持施設ではないですよっていうような、ご説明なのかなと伺ったん。
1:05:08	と認識したんですけれどもそういうような認識で間違いないでしょうか。
1:05:15	印象今日の予定です。長さんそれ認識でちゃんと間違いございません。
1:05:20	規制庁五島です。はい、承知いたしました。
1:05:35	他に規制庁の方から、打田です。
1:05:41	助教の打田です。
1:05:42	ちょっと1点だけよろしいですか。はい。
1:05:46	ちょっと発言の方を訂正させてください。VANEWは過去にトリチウムが検出されてたのってというのはちょっと私の勘違いでした。あくまでもトリチウム提出されてたのは、MAWの方でちょっとそちらと勘違いしてました。
1:06:01	このVanAWについては、空調空調排気と手洗い水ということなので、過去から放射線別、経営管理部案という状況です。すいませんでした。訂正させていただきます。
1:06:14	はい。規制庁の島です。はい。承知いたしました。
1:06:26	他は規制庁か何かありますか。
1:06:31	伊勢社長からです5ポツのところ既存設備内の影響がないっていうことを示されてる。
1:06:41	ですが、今回この追加する
1:06:46	自動切替装置が、
1:06:51	た時ってというのは、この空気の供給への影響というのはないっていうことでいいんですかね。
1:07:01	中小機構打田ですけど、自動切り換えが、
1:07:07	制御盤が停止ということは、例えば制御盤が故障しちゃったとか、何らか、
1:07:15	自動切り換え装置自体が壊れて、
1:07:19	空気圧縮空気の供給に影響を与えるってことはないないっていう確認が聞きたかったんですけど。
1:07:29	現象機構の内田です。この先生の自動切替制御盤というのは、非常に起動
1:07:36	スイッチの部分も感じてるので当然その部分が壊れればあと停止してしまうと。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:43	状況です。ですので
1:07:55	検証機構の打ち合わせ、議事堂切り換え機能の部分追加する部分が壊れてもそれはちょっと影響ないという状況です。以上です。
1:08:08	例えば図の2で、今回、手動弁を電動弁同弁に、
1:08:17	切り替える。
1:08:20	ですけど、
1:08:21	何か、
1:08:23	その自動切り換え装置が、
1:08:27	止まったらこの
1:08:29	連動弁は閉まっちゃうんだよとか、そそういうことはないってことなんですかね。
1:08:39	原子力機構の打田です。ここ、
1:08:46	少々お待ちください。
1:08:58	機構の打田です。そその部分はきちんと運転できるように、
1:09:02	するという状況です。
1:09:11	はいわかりました。
1:09:23	現職の打田です。報告させていただきますとその次、自動切替ではなくてその起動手動起動モードなるものをちょっと追加しますので、起動については、
1:09:36	前、問題なく行えるということです。
1:09:39	以上です。
1:09:46	よろしいですか。
1:10:05	と規制庁の嶋ですが他は特にはないでしょうか。よろしいですかね。
1:11:06	すいません規制庁大島ですとか特にはないようでしたら、
1:11:15	このスケジュールの説明の方もお願いできますでしょうか。
1:11:26	はい。原子力機構の小林です。それでは最後のページのスケジュールの方説明させていただきます。
1:11:36	本日、ご説明いたしました内容を、そ、
1:11:42	に基づきまして25から6月の初旬の8日にかけてまず5月末に申請を予定しておりますが設置工認、
1:11:54	この内容を及び、前回監視チーム会合等で
1:12:00	コメントいただいている植田ビューティー藤小規模プラント試験の計画、施設の火災予防をそれらについて

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:09	6月末ごろですかね監視チームに向けて、資料の方を順次そろえて説明させていただき予定で、
1:12:18	してまいります。以上です。
1:12:27	規制庁の大嶋です。スケジュールについて規制庁の方から、確認しておく点等がありましたらお願いいたします。
1:12:38	支社長、上間です
1:12:40	その他施設の火災防護については今、25日で、火災室も含めてちょっともう一度、
1:12:47	確認させてもらいたいってことで、
1:12:50	調整してるんですが、
1:12:53	そうではなくてってことですかね。
1:12:58	減少傾向中です。です。その他施設についての25日、あれ、ちょっとそこすいませんがちょっと抜けてございます。申し訳ございませんが25日の方、
1:13:12	説明の方を丁寧に補足した上で改めて、
1:13:17	25日に出したいと考えてございます。
1:13:22	はいお願いします。
1:13:25	ちょっと交渉しますが、できれば来た方がいいかな。
1:13:37	それはそうです。はい。はい。はい。
1:13:50	規制庁、嶋です。他の内容でしたと。
1:13:56	機構から追加で、確認この場でしておきたいことがありましたらお願いいたします。
1:14:13	認証規模の話です特に機構側からございません以上です。
1:14:19	規制庁の嶋です。はい、ありがとうございました。そうでしたらこれでですね、本日のヒアリングの面談の方を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。
1:14:34	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。